



環境負荷の少ない集約・連携型の都市づくりについて

小林 修 (市民と共に働く会)

問 人口減少が見込まれる中、コンパクトで持続可能なまちづくりのため、行田市都市計画マスタープランに基づき、拡散型都市構造から集約的都市構造への転換のため、多様な都市機能を市街化に集約するとともに、道路や公共交通と連結し地域間のネットワークを形成する、集約・連携型の都市づくりの基本方針の本市の強みとは何か。

答 本市には、利根川をはじめとする豊富な水辺環境のほか、さきたま古墳公園などの自然環境に加え、忍城址や足袋蔵に代表される歴史を感じることでできる史跡や建造物があり、これらの特徴的で魅力ある地域資源や歴史資源が豊富にあることが強みである。

問 人口減少が見込まれる中、コンパクトで持続可能なまちづくりのため、行田市都市計画マスタープランに基づき、拡散型都市構造から集約的都市構造への転換のため、多様な都市機能を市街化に集約するとともに、道路や公共交通と連結し地域間のネットワークを形成する、集約・連携型の都市づくりの基本方針の本市の強みとは何か。

答 本市には、利根川をはじめとする豊富な水辺環境のほか、さきたま古墳公園などの自然環境に加え、忍城址や足袋蔵に代表される歴史を感じることでできる史跡や建造物があり、これらの特徴的で魅力ある地域資源や歴史資源が豊富にあることが強みである。



「市長の政治姿勢」官・民へのトップセールスを問う

小林 友明 (新政策研究会)

問 石井市長は、本市のまちづくりの関係で、あるいは本市を生まれ変わらせるために、行政の首長として、1人の政治家として、この3年半対外的にどのような活動をしてきたのか。埼玉県、国の機関及び市区町村への要望活動や、市外の民間企業への誘致活動等々、行政のトップとして、政治家石井市長として、対外的なトップセールスにどう取り組んできたのか。

答 令和元年の東日本台風により甚大な被害が発生した忍川流域の治水対策で、国土交通省並びに埼玉県に働きかけ、忍川浸水対策重点地域緊急事業に取り組んでいる。また、埼玉県や行田おもてなし観光局と一緒に、さきたま古墳エリアにさきたま市場の整備を計画し、実施段階にある。市長として、本市の特徴や優れた点をしっかりと宣伝することがトップセールスであり、日々の活動において発信してきた。



自転車専用道路の整備

橋本 祐一 (みらい)

問 本市の地形は平坦で自転車での安全な移動に非常に適しており、市民の移動手段の一つである自転車での移動の安全確保が必要である。また、本市は、レンタサイクル事業を行っており、観光者にレンタサイクルを利用してもらう際の安心安全に配慮するとともに、観光者は不慣れた道路を走行することから、市民のドライバーの安全も図る必要があると考える。市民や観光者の自転車での移動の安全を図り交通事故をなくすために、自転車専用道路を整備すべきと考えるがどうか。

答 自転車専用道路は、自転車の安全かつ円滑な運行と回遊性の向上によるまちの活性化、さらには点から面的な移動の連続性が確保されることで周遊観光を生かした観光振興が期待できる有効な手段の一つと認識している。しかしながら、自転車専用道路は自転車の一般交通の用に供する独立した道路であること、また、その道路幅員が3メートル以上必要であることから新たな用地の確保は困難な状況である。